

1. 地域文化・人材(住民)など地域をよく知る

地域文化施設には、設立目的の違いや規模の大小がある。一般的に、小規模な施設は、地域に密着した芸術文化や生活文化の活動拠点として、大規模な施設は本格的な芸術文化活動の拠点としての役割を担うものと認識されている。

だが、どのような地域文化施設であっても、施設が立脚している地域を知らずして、ミッション・戦略の立案、事業の展開、そして事業の評価は行えない。まず、地域を知ることから始めるべきである。

その作業は、地域文化施設の運営を支える文化的・人的資源の発掘であり、サービスを届けるべき市民の姿を知るマーケティングである。地域のことを十分に把握せず独善的な事業を実施すれば、文化施設が地域から乖離するばかりか、市民からの批判を招く恐れもある。

把握すべき地域の主要要素を、資源（リソース）と対象（ターゲット）に分けて整理すると、次のようになる。

(1) 地域の文化的資源（リソース 1）

地域文化の範囲はきわめて広い。地域に古くから伝わる伝統芸能はもちろん、郷土の歴史、あるいは方言や習慣なども含まれる。地域によっては、子供たちの習い事としてピアノやバレエが盛んな地域もあれば、コーラスや和太鼓が盛んな地域もある。また既に劇場があり、アマチュア劇団が活躍するなど、劇場文化が花開いているケースもあるだろう。これら、地域に蓄積されてきた文化的な所産、そして現在、地域でおこなわれている文化的活動の実体すべてについて、わが国の歴史・伝統・文化を踏まえ、さらには世界的な視座からもう一度リサーチすることが、地域の文化的リソースを把握する第一歩である。

(2) 地域の人的資源（リソース 2）

地域文化施設が把握すべき地域の人材は、地元で活躍するアーティストや芸術活動を行う文化団体ばかりではない。教育や福祉、環境問題、まちづくりなど、文化以外の分野で活躍する市民、地域に何らかの形で影響を持つキーパーソンなど、人的資源を幅広く把握し、地域文化施設の運営リソースとして位置づける必要がある。

[地域の文化的資源の活用事例]

沖縄市民小劇場「あしびな〜」 | 地元の文化をホール運営・企画に取り入れ事業を展開

- 嘉手納基地のある沖縄市は、アメリカ文化と日本・沖縄の文化を融合させ、他地域に類をみない独特の〈チャンプルー文化〉ともいわれる「コザ文化」を形成している。
- 沖縄市民小劇場「あしびな〜」は、沖縄の伝統文化をはじめ本市の独特の文化であるコザ文化を広く内外に発信するとともに、中心市街地への集客の支援施設として、幅広く事業を展開している。
- 運営のコンセプトは、「文化発信の出門」事業。劇場だけの催事にとどまらず、公演のマチマーイ(街廻り)やふれ太鼓を実施するなど、昔からの伝統を再現。単なる文化振興という枠を超えて、独自の「コザ文化」として根づき、発展してきた「島唄」や「沖縄芝居」、「琉球舞踊」、「オキナワンロック」や「フォークソング」などコザならではの諸々の素材を活用している。
- 特に注目すべき事業が劇場付きフランチャイズの「あしびな〜歌舞団」の育成。これまでの伝統芸能である琉球舞踊をベースにしながら、「りんけんバンド」や「ネーネーズ」といった地元コザ出身の音楽を使い、芸術監督が演出を担当した創作劇を上演。衣装も地元のデザイナーがオリジナルでデザインしている。
- 沖縄市民小劇場「あしびな〜」: 〒904-0004 沖縄県沖縄市中央2-28-1、Tel. 098-934-8478



登米祝祭劇場 | 舞台づくりを通じてまちを知る

- 1994年にオープンした登米祝祭劇場は宮城県が設置した広域文化施設で、登米郡8町(迫、登米、東和、中田、豊里、米山、石越、南方町)で構成された財団法人登米文化振興財団が運営している。
- 「登米郡らしい催しをつくろう」と、98年から郡内8町の歴史や文化をひとつずつ取り上げ、創作から運営まですべて住民の手づくりで劇化する「登米郡民劇場・夢フェスタ水の里」事業をスタート。
- 2002年3月に開催された第4回公演「菜の花の川〜とよさと二ツ屋物語」は、豊里町の歴史に材を取った町民劇。題材となった豊里町には、当日、PRスペースを提供(登米郡に伝わる風習である「釜神」を展示・紹介)したり、また舞台をつくるにあたって、実際に同町に出かけ勉強する題材地研修を実施、さらに郡内約21,000戸に配布する広報誌を作成し、同町の紹介を行うなど、舞台づくりを通じてまちを知り、知ってもらう様々な工夫を、住民による実行委員会が企画。
- 「芝居でデフォルメしてみてもはじめて、自分の町について発見できることがたくさんあった。今は人恋しい時代で、何人の中に自分を発揮できるかが問われるところがあるので、みんなが芝居をつくるというこの方法はとても時代に合っていると思う。」(豊里町長・只野九十九)
- 登米祝祭劇場: 〒987-0051 宮城県登米郡迫町左沼字光ヶ丘30番地、Tel. 0220-22-0111



横浜にぎわい座 | 地元のお笑い文化の発信地として、まちを活性化

- JR桜木町駅を挟んで、横浜の人気スポット「みなとみらい」の反対側に位置する野毛地区。ここは戦後間もない頃、多くの芝居小屋が軒を連ね、GHQの占領したビルでボードビルが行われた芸能の町だった。
- 下町の風情が残る野毛地区の活性化の拠点として2002年4月にオープンしたのが「横浜にぎわい座」。公立ホールとしては珍しい大衆芸能専門施設として活動を展開している。
- 毎月1日から15日まで自主事業として落語、漫才、マジック、浪曲、講談など幅広い大衆芸能の公演を行い、11日から15日まででは定例で「にぎわい座有名会」と称した落語協会と落語芸術協会の寄席形式による合同公演を行う。
- 芸能ホールのほかに、ジャグリングの練習にも使える天井高5・5メートルの小ホールが設けられており、毎年恒例の地域のイベント「野毛大道芸」の一部が行われるなど、地域と連携しながら、まちの活性化に一役買っている。
- 横浜にぎわい座: 〒231-0064 横浜市中区野毛町3-110-1、Tel. 045-231-2525



[地域の人的資源の活用事例]

長久手町文化の家：地元の県立芸術大学との連携

- 長久手町文化の家の立地する愛知県長久手町は、名古屋市に隣接する人口約4万人の町。
- 地域の特徴として、町内に4つの大学が存在することがあげられる。なかでも芸術家集団である愛知県立芸術大学の存在は大きく、卒業後も長久手町に住み、活動を続ける芸術家も多い。
- 県芸卒業後ドイツに渡り、約20年間オペラハウスの専属歌手として活躍、その実績から県芸の教官に招かれたアーティスト・大下久美子氏が立ち上げからプロジェクトに関わっている。開館後も企画委員を務めるとともに自主事業の一つであるオペラレクチャーコンサート「長久手オペラ」のプロデュースや隔年開催の「長久手オペラ声楽コンクール」の審査委員を務めるなどオペラを軸にした事業展開の中核的な役割を担っている。
- また同大学の大学院が卒業公演として実施するオペラ公演を共催事業として実施。声楽家を目指す大学院生のほか、大学の合唱団や管弦楽団、美術学部(小道具製作)が加わった本格的なオペラ公演に対して、会場提供だけでなく、事業費を等分に負担。また、町内の中学生と高校を招いて指導を行う「吹奏楽クリニック」を同大学と提携して実施するなど地域の資源を積極的に活用している。
- 長久手町文化の家：〒480-1131 長久手町大字長湫字野田農94番地1、Tel. 0561-61-3411



多治見市文化振興事業団：地元の人材を活用して新しい講座のカタチを模索

- 2001年に開始した「たじみオープンキャンパス」の取り組み。これは同財団の考える新しい講座のカタチであり、“教えたい(講師になりたい)”という市民を募集して、主体的に講座を企画してもらおうというもの。教えたい意欲のある人を地域の人材として取り込めるようアドバイザーとして登録し、事業団は市民が自分たちで講座を計画できるよう全面的にサポートしている。受講希望者が10名に満たない場合は開講しない、講師料は受講料で賄うなどの市場原理を取り入れ、赤字を出さないシステムとなっている。
- 当初からの課題として、「市民が自発的に文化活動に入っていける仕組みがない」というのがあり、では市民による市民のためのシステムをつくってしまおう、というのが発想の原点となっている。
- 今では講座を通じた新しいコミュニティができています。2002年度は計130講座が開講、受講生の数は延べ約2,000人にも上る。
- 事業団が管理運営している7つの公民館とも連携を取り、地域の人材を発掘してプログラムの充実を積極的に図っている。
- 財団法人多治見市文化振興事業団：〒507-0034 岐阜県多治見市豊岡町1-55 まなびパークたじみ5F、Tel. 0572-24-6352



(3) 生活圏（ターゲット 1）

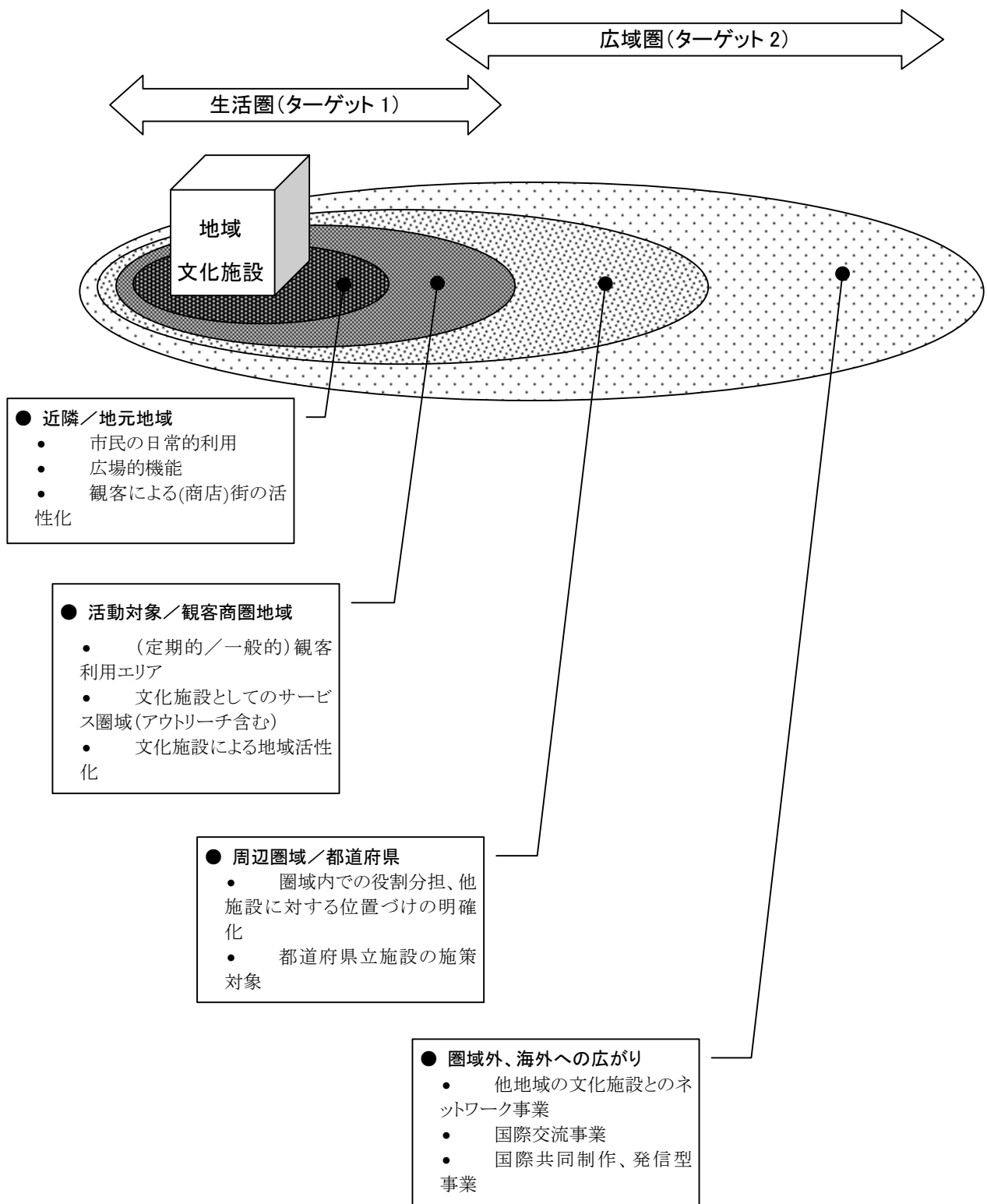
地域文化施設は、施設の立地エリア、そしてそこを生活圏とする住民へのサービスが基本である。まず、これら「日常的利用圏」の住民に愛される存在でなければならない。とりわけ、実際の利用者だけではなく、日頃、芸術に触れる機会のない市民、地域文化施設に足を運ぼうと思ってもできない人々（社会的弱者を含む）なども視野に入れ、あらゆる市民に開かれた、バリアのない運営を目指すべきである。

(4) 広域圏（ターゲット 2）

地域文化施設は広域圏におけるあり方や役割も視野に入れるべきである。市町村立の施設においても、都道府県などの広域地域へ向けた発信力、さらには、国際的な視野から当該施設の役割を見つめなおすことも必要であろう。

地域の人的・文化的資源を原資とした独自の舞台創造を、広く異文化交流の場に環流させること、あるいは国際的な芸術家との協働によって、創造活動へのより高い刺激を得ることが重要であろう。

[生活圏と広域圏における地域文化施設の位置づけ]



(5) 地域の住民ニーズ

地域文化施設は、地域の住民ニーズに基づいた運営が原則である。その際、直接的なニーズだけではなく、長期的な視点に立って、潜在的なニーズを汲み取りながら運営し、地域の住民や地域社会にとって真に求められているものは何かを見極め、開拓していく必要がある。

直接的住民ニーズ<要求課題>

直接的欲求に基づくニーズや要望。財・サービスの提供による効果は見えやすいが、過度な充足は他のサービスを圧迫する。また、地域社会全体の効用にはつながらない場合や利害が対立する場合もある。

- 「エンターテイメントが見たい」「バイオリンの演奏会を開催したい」「ミュージカルに出演してみたい」「より安くチケットを手に入れたい」など

潜在的住民ニーズ<必要課題>

直接的住民ニーズのような具体的な財・サービスの要求ではなく、長期的、究極的に住民が望んでいること。直接的住民ニーズに対するサービスの蓄積により実現する。但し、場合によっては直接的ニーズに対して提供されるサービスが、逆に潜在的ニーズの実現に寄与しない場合や実現を阻害する場合もある。また、同じニーズでも地域により求めるレベルは異なる。

- 「感動したい」「活力ある地域社会」「心の豊かな人づくり」「世代間交流の協働」など

(6) 地域の課題

地域文化施設は、社会経済環境の変化と無関係でいることはできない。少子・高齢化は観客層とその嗜好に影響を与え、IT化の進展は文化施設の情報サービスの質やスピードの変容を迫り、芸術の受容のあり方にも大きなインパクトを与える。交流機能を期待された施設にとっては、中心市街地の空洞化などのまちづくりに関する課題はミッションの一つである。

また、市町村合併の進展は、文化施設の地域における役割の再考を促し、同じ行政区域内での複数施設の役割分担やネットワーク構築などが、緊急の課題となつてこよう。

[地域の住民ニーズの把握事例]

1. 観客へのアンケート

多くの地域文化施設で行われている方法。アンケートへの回収率を上げるために質問項目を場合によっては簡素化する必要もあろう。また、個々の事業評価のみならず、毎回共通項目を設けるなど工夫次第では、長期的な視点での評価法になりうる。

2. 住民意識調査

地域文化施設に訪れる観客のみならず、住民レベルで行うもの。地域文化施設が地域住民に何をもたらしたかを調査。地域文化施設が、地域のライフスタイルやイメージアップにどのような役割を果たすべきかなど大局的なニーズの把握も可能となる。

3. 企画・運営などへの住民の参画

地域文化施設の企画・運営などに住民を直接参画させ、意見を取り入れることもニーズを把握する一つの事例であろう。但し、参画する住民の募集、決定方法や責任の所在などの問題もある。地域文化施設が、集客などを目的に結成している友の会やサポーターズクラブのメンバーから意見を聞く方法もある。

4. 地域に出向く

地域文化施設の職員が住民や文化団体などの活動の場に出向いて、ニーズを聞く機会を設け、地域文化施設側の意向を伝えることも考えられる。また、アウトリーチ活動なども展開し、住民の芸術へのニーズを掘り起こす取り組みも必要である。

[地域の課題・ニーズへの対応事例]

ぐんま地域ネットワーク事業2002（大泉町文化むらほか）

｜ 公立ホール間と他の行政機関との連携で地域の課題にも対応

- 2002年12月から2003年3月にかけて、群馬県東毛区地域の4つの公立ホールで「奥村愛 ハートフル・コンサート」と題したコンサートが開催された。これは、近隣同規模文化ホールのネットワークと各町保健センターなどとのダブルのネットワークで開催される事業で今回で3回目となる。
- 企画のねらいは、将来に向けて地区内の潜在的な顧客を掘り起こすこと。そこで妊娠中の女性や小さい子どもを持つ家庭を対象にしたコンサートを企画した。東毛地区も新興住宅地が多く、若いお母さんたちは孤立しがち。音楽によりリラックスしてもらうとともにコンサートがコミュニケーションの場になることも想定している。無料の託児サービスを設置し、小さな子どもを連れていてもゆっくりとコンサートを楽しむよう配慮している。
- 地区内には個別に胎教コンサートなどを開いている保健センターが少なくないことから、保健婦さんたちに“ホールと一緒に素敵なコンサートを提供してみませんか”と提案。どこからも快く協力を得られ、医師会など関連団体も後援。
- ぐんま地域ネットワーク事業2002「奥村愛 ハートフル・コンサート」期待の大型新人ヴァイオリニスト奥村愛とピアニスト石橋尚子による、トークを交えたポピュラーなクラシック曲の演奏会。
[参加施設]大泉町文化むら・新田町文化会館・笠懸野文化ホール・境町総合文化センター
- 大泉町文化むら：〒370-0514 群馬県邑楽郡大泉町朝日5-24-1、Tel. 0276-63-7733



ふくやま芸術文化ホール・リーデンローズ | 音楽を通じた世代間の交流を目指して

- 2003年2月、福山地方の芸術文化活動の拠点リーデンローズで「三世代交流事業トライアド・プラン」が開催された。これは音楽を通じた世代間の交流を目的として毎年開かれているもので、今回で4回目となる。
- 広島県福山地方でも、少子高齢化・核家族化によって、三世代家族が激減、家庭機能が変化し、地域内の連帯も希薄になっている中で、音楽を通して心の交流を図ろうという趣旨のもとで開催されているもの。
- 三世代が単に同じステージに上がるだけでなく、それ以前の段階から一緒に音楽づくりをしてゆこうという発想で、竹楽器を作るところから協働作業が始まり、完成した楽器（マウイマリンバ）によるリズムアンサンブル（オリジナル曲）の演奏などを中心にステージでの共演を果たした。地元のオーケストラや合唱団、小学生から80代の高齢者まで約400名が参加。
- ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ：〒720-0802 広島県福山市松浜町2-1-10、Tel. 084-928-1815

